

群馬医療福祉大学

2020 「学習状況に関する調査」「学生満足度調査」 結果報告

【本調査報告書】

全学 学生委員会・IR室

I 調査概要

(1) 調査の目的

大学における学生の生活実態や満足感を把握するとともに、それらを左右する要因や教育の効果を検証し、大学生生活や教学などに関する改善策の提案を目的とした二つのアンケートを実施します。一つは、「学習状況に関する調査」です。このアンケートを通じて、私たちは学生の大学及び大学以外での学習の実態、さらに自立的な学習を進める上での困難をとらえ、今後の授業を改善し、学生の自立的な学習を進めるための資料として活用します。もう一つは、「在学生満足度調査」です。学生の皆さんの大学への率直な意見を伺い、魅力ある大学・短大となるための改善・改革に取り組む基礎資料とします。

(2) 調査の方法

※別紙「「学生満足度調査等」実施について」に示した調査手順により、Google フォームにて作成した調査票に回答する。

1) 設問の構成 全 43 問

- A 「学習状況に関する調査」関係 設問【1】～【28】
- *あなた自身について 設問【1】～【9】
 - *学生生活について 設問【10】～【16】
 - *受講している授業について 設問【17】～【27】
 - *現在の状況や考え方について 設問【28】
- B 「在学生満足度調査」 設問【1】～【15】
- *入学前の気持ちと本学の認知について 設問【1】～【4】
 - *本学の教育について 設問【5】～【9】
 - *本学で身についたことや身につけたいこと 設問【10】～【15】

2) 実施機関

全学学生委員会が主体となり、昨年度まで実施したアンケート結果を踏まえ、学習状況を深化した調査をおこなう。

3) 実施時期

- ・前橋キャンパス・本町キャンパス（社会福祉学部・短期大学部・リハビリテーション学部）
2020（令和元年度）年2月7日（金）年度末オリエンテーション時
- ・藤岡（看護学部） 2020（令和元年度）年2月14日（金）年度末オリエンテーション時

4) 調査対象 全キャンパス・全学年の在籍者

5) 回収数・回収率

所 属	在籍者数	回収数	回収率
社会福祉学部	303	205	67.7
看護学部	361	253	70.1
リハビリテーション学部	267	192	71.9
医療福祉学科	105	83	79.0
合 計	1,036	733	70.8

(3) 調査結果の報告について

- 1) 各キャンパス学生委員会にてアンケート集約
- 2) 令和2年4月1日(水)から社会福祉学部で集約・分析手続き作業開始
- 3) 定例学生委員会にて進捗状況報告

II 調査結果のまとめと考察

調査結果のまとめの方向性

〔ねらい〕 本調査は、学生生活や学習状況、大学への関わり方などを総合的に問う本格的な調査であり、全学生に実施した全数調査である。総合的に満足度を把握することで、大学教育および大学運営上、どのような点に改善の狙いを定めたらよいかを確認することが大きな目的であった。

本年度(令和元年度)の調査は前年度までの質問項目と同一であり、今後の比較検討するための基盤として本学の特徴をつかむために実施する。また、他大学との比較を可能とする質問を用意し、内容も多岐にわたるものとした。いくつかの質問への回答から、本学の課題やよさが浮かび上がる内容になっている。本報告においては、第1部「学習状況に関する調査」、第2部を「在学生満足度調査」とし、特に特徴的な点をピックアップし、改善につながるポイントを提示する。

第1部「学習状況等に関する調査」関係

課題1)〔入学形態の今後の動向〕 今後は高大連携によるAO入試を積極的に推進する必要がある。そのためには、高等学校との定期的な協議体制の構築、合同授業や合同研修の実施等、高等学校教育と大学教育のさらなる連携強化を図っていく必要がある。

[問1]アンケートに答えた学生の所属は大学88%、短大12%であり、[問2]所属学部(学科)は社会福祉28%、看護35%、リハビリ26%、短大11%となっている。[問4]入学形態は一般入試が24%であるのに対し、地域推薦枠は7%、AO入試は23%となっている。昨年度の入試形態と比較して、一般入試が低くなり、AO入試が高くなっている。一方で高大連携によるAO入試は9%と依然として低い水準にあり、今後高大連携によるAO入試を積極的に推進する必要がある。

課題2)〔勉強への取り組みに課題のある者や成績が下位だった者に対する対応等〕 学生の学習に対する意識改革が必要である。高校や大学で勉強時間が少ない者や成績が下位の者が多く、学生の本分である学修への取り組みが入学後も低迷している。学生の自主的な学習習慣を身につけさせるため、教職員が連携して効果的に学生指導を継続していくことが必要である。さらにアクティブ・ラーニングを積極的に活用して、学生の学習意欲を高めていくことが必要である。

[問6]高校3年生の時の一日の勉強時間は「4時間以上」15%に対し、「1時間程度以下」52%と約半数である。[問7]中学3年生の時の成績は「中の上以上」36%に対して、「中の下以下」32%存在している状況にある。[問8]中学、高校時代に将来について「かなり考えた者」23%と少なかったが、[問9]大学に入ってから「将来就きたい職業が明確にある」とした者が47%、「ある程度ある」を含めると86%に達し、大学へ目的を持って入る者、若しくは入ってから決める者が多数を占めている。[問10]しかし、学生生活の過ごし方を見ると「勉強・研究第一」16%、「資格取得第一」は8%程度と低迷しており、「趣味や豊かな人間関係・交友関係を望む」ものは合わせて31%、「何事もほどほど」が30%となっている。[問11]次に学生生活の充実度は「充実・まあまあ充実」が合わせて80%と高い比率を占めている反面、「あまり充実していない・充実していない」と答えた者が20%存在することも留意しなければならない。[問12]大学生としての勉強への取り組みは「よくしている」「まあまあしている」を合わせると63%となっているが、「あまりしていない」と「ほとんどしていない」も37%となっている。[問13]その理由としては「アルバイトが忙しい」「授業が面白くない」者に加え、「なんとなく」や「自分の目標が不明確」なども多数存在する。[問14]なお、「自分に自信を持って行動できているか」の問いには63%がそれなりにできていると自己評価している。[問15](1)次に、授業に費やす時間については週に21時間以上が最も多くなっているが、(2)予習復習に充てる時間は5時間以下が多数を占めている。(3)また、授業に関係ない自主的な勉強は85%が2時間以下と少ない状況にある。(a)さらには、資格試験対策としての講座への参加は1時間未満が63%、自主的な勉強についても62%が1時間未満である。(b)次に、教養関係の本を読む時間が「1時間未満」85%、(4)新聞を読む時間が1時間未満の者が96%と大多数となっている。(6・7)サークルと委員会活動への参加は週に「全くなし」がそれぞれ59%、65%と過半数を占めている。(8)就職活動も「全くなし」72%。(9)アルバイトは「全くなし」25%「1週間に6時間以上」47%「21時間以上」9%となっている。(10)ボランティア活動も「3時間以上」40%、「全くなし」35%。[問16]1ヵ月の読書数は「0冊」59%、「2冊以上」20%である。

課題 3)〔教授方法について〕 大学教員の教育能力のさらなる向上を図ることが必要である。そのためには、個々の教員レベルだけでなく、全学的に、あるいは学部・学科全体で、組織的な取り組みが重要である。さらにアクティブ・ラーニングの積極的な導入など、教育内容・方法等の改善に積極的に取り組んでいくことが必要である。

[問 17]授業に対する態度については、「熱心」「まあまあ熱心」は78%となっているが、一方で「熱心ではない」「全く熱心でない」が22%となっている。[問 18]また、授業に対する満足度も「満足」が74%で「不満足」が26%となっている。[問 19]さらに、授業の理解度について6割程度以上理解している者は71%となっており、6割未満の理解者も29%となっている。[問 20]次に、授業内容に関することでは、話し合いなどを採り入れているのが83%と教員が工夫している面が見られる。[問 21]反面、授業中の私語・携帯電話の使用・居眠りが25%ある。[問 22・23]また、宿題の必要性についても賛成は20%止まりであり、賛成しない者は32%となっている。なお、今のままで十分に多いと感じている者も25%いる。[問 24・25]次に、勉強に関する困難さを感じている者が65%を占め、なかでも専門科目について27%が困難と感じている。[問 26]また、困難さの要因としては「何をやったらよいか分からない」「意欲が湧かない」「高校までの基礎知識が足りない」などあげており、[問 27]その乗り切り法として「学科の先輩や友人に訪ねる」ことで解決している。

課題 4)〔社会人基礎力の向上〕 学生の現状は新たな知識等の吸収意欲に欠けるも、協調性や言動に対する責任感が高い。良いところを伸ばし、欠けるところをしっかりと支援できる環境づくりのための基盤の整備・充実が重要となっている。

[問 28](1)時事問題に「関心のある」は48%、「ない」と「どちらでもない」が52%と過半数になっている。(2)次に、相手の気持ちや立場に立って適切な行動ができるか否かについては「あてはまる」と回答した者が78%を示している。(3)また、身近な問題は自分たちで解決すべきだと思う者も79%を示している。(4)さらに将来について今やっていることがある者も62%に上っている。(5)他者の言動に流されないという者が48%、流される者は21%を占めているが、(6)周りの人と協調して物事に取り組むことが出来る者が約74%を占めている。(7)次に、新聞やニュース等まつわる雑誌等をよく読むか否かは「読む」が25%「読まない」が46%と高いが、(8)物事を多角的にとらえようとしている者が55%と高率になっている。(9)次に、自分が就きたいと思う職業が明確にある者が73%、ない者が11%となっている。(10)また、自分の意見をはっきり言うことが出来る者が51%、出来ない者も20%いるが、(11)周りの人と良い関係を維持することが出来る者が71%と高率を占めている。(14・15)自分のことは自分で判断することや自分の感情をコントロールできるとした者も70%前後と高率になっている。(16)なお、10年後の自分の姿を考えたことがある者は49%、ない者が24%。(17)自分の言動に責任を持っている者が72%となっている。

B「満足度調査」関係

課題 5)〔学生満足への取り組み〕 入学前の満足度が高い者が多く、また大学の認知や基本的な理念・目標についても理解は進んでいる。一方で学年によって対応が異なる面があり、一律に見ていくことは難しいが、基礎演習、外国語教育、クラス担任制、ボランティア活動(単位認定)について、学生の満足度を高めるために検討が必要である。

[問 1]入学決定時の気持は満足が66%となっているが、満足していない者も12%存在している。[問 2]本学の教育理念の認知については、入学前から知っていた者が55%、入学後が38%となっている。[問 3]また、教育目標に対する認知度も同様であり、[問 4]理念や目標をいつ感じるかについては、講義を受けているときが多い。[問 5](1)次に、共通教育に対する満足度は満足しているが58%、不満は9%。(2)専門教育について満足している64%、不満は8%となっている。(3)情報教育については半数が満足しているが「どちらともいえない」34%。(4)総合演習(ゼミ)・卒論指導については満足が37%、不満は8%で受講していない者も27%いる。(5)基礎演習については54%が満足、不満は14%存在している。(6)外国語教育については満足が41%、不満が14%となっている。(7)キャリア支援関係では満足が33%、どちらともいえないが32%、受けていない者も30%となっている。(8)次に、資格取得対策講座については「満足している」40%、「どちらともいえない・不満」が38%となっている。(9)クラス担任制については「満足している」60%、「不満」12%となっている。(10)ボランティア活動(単位認定)に対しては「満足」48%、「不満」が21%となっている。

課題 6)〔教育能力の向上〕 授業内容とその難易度、教育方法について半数近くの学生が不満を持っている。教員の教育能力の向上のため、教育システムの開発(ITを用いた教材開発、学生による授業評価など)、組織体制の構築(FDの推進体制、教職協働など)が今後さらに求められる。

[問 6]意欲的に取り組んでいる事項としては「専門的な知識を身に付けること」が334件と最も多く、次いで「幅広い教養を身につけること」279件、「資格取得の対策を行う」が185件、「実験・実習で学ぶ」が157件となっている。[問 7]次に、受講している授業での不満について「一方的な授業」162件、「指導が十分でない」166件、「教員の熱意が不足」65件と教員に対する意見が多く、[問 8](1)次いで「授業内容に興味がない」146件、「授業の必要性がわからぬ」91件、「授業が難しい」159件、また「施設・設備が充実していない」101件、「不満がない」116件となっている。

課題 7) [授業内容の改善] 本学の授業内容に関して、専門分野や基礎・教養分野は充実している一方で、演習（ゼミ）・卒論指導での教育、外国語教育、情報リテラシー教育、選択授業科目について、さらなる創意工夫を凝らした授業展開が必要である。

[問 8] (1) 専門分野の授業については「充実している」65%、「していない」5%。(2) 基礎・教養分野の授業は「充実している」60%、「していない」8%となっている。(3) 演習（ゼミ）・卒論指導での教育の充実では「充実」40%、「どちらともいえない」50%。(4) 外国語教育については「充実」36%、「どちらともいえない」43%、「充実していない」21%。(5) 実験・実習科目に十分な時間が取れているかについては「取れている」53%、「どちらともいえない」37%。(6) 情報リテラシー教育の充実については「している」44%、「どちらともいえない」41%。(7) 選択授業科目の充実については「している」44%、「どちらともいえない」38%。(8) 少人数クラスの授業が多いかについては「そう思う」45%、「どちらともいえない」33%。(9) 高校で学んだこととの結びつきが多いかは「そう思う」29%、「どちらともいえない」37%、「そう思わない」34%とそれぞれおよそ 1/3 となっている。(10) 次に、授業が資格取得に役立つか分かる授業が多いかについては「そう思う」57%、「どちらともいえない」34%。[問 9] (1) 授業の進め方や指導法をよく工夫している教員が多いかについては「そう思う」50%、「どちらともいえない」34%、「そう思わない」16%となっている。(2) また、教育・指導に熱意を持っている教員が多いかについては「そう思う」52%、「どちらともいえない」33%、「そう思わない」15%。(3) 勉学意識を持たせてくれる教員が多いかについては「そう思う」43%、「どちらともいえない」34%、「そう思わない」23%。(4) 学問分野の専門家として優れた教員が多いかについては「そう思う」54%、「そう思わない」13%。(5) 人間的に魅力あり尊敬できる教員が多いかについては「そう思う」45%、「そう思わない」24%。(6) 授業中の質問・意見に適切に対応してくれる教員が多いかについては「そう思う」54%、「どちらともいえない」31%。(7) 授業以外での教員とのコミュニケーションがとりやすいかは「そう思う」58%、「どちらともいえない」26%。(8) 卒業後の進路について適切な助言をしてくれる教員が多いかについては「そう思う」48%、「どちらともいえない」36%となっている。

課題 8) [学生の身に付けたい能力] どの設問でも現在の状況は「身についた」と回答した人よりも、今後身に付けたいと回答した人の割合が高くなっている。特に創造力（新しいアイデアを生み出す力）、発信力（自分の意見を分かりやすく伝える力）、外国語能力の面で、学生はより一層の成長を希望している。

[問 10] (1) A 常識にとらわれず新しいアイデアを生み出す力は現在どの程度身に付いたかでは「身についたと思う」47%、「そう思わない」14%。(1) B また、今後どの程度身に付けたいかでは「身につけたい」69%、「どちらともいえない」27%。(2) A 現状を分析し課題を明らかにする力は身についたかでは「そう思う」53%「どちらともいえない」36% (2) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」70%、「どちらともいえない」26%。(3) A 目標達成に必要なプロセスを計画し準備する力が身についたかでは「そう思う」52%、「どちらともいえない」38%、(3) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」が69%、「どちらともいえない」27%。(4) A 目標達成に向かって取り組み続ける力が身についたと思うかでは「そう思う」55%、「どちらともいえない」35%、(4) B 今後身に付けたいと思うかでは「そう思う」73%、「どちらともいえない」24%。(5) A 自分から進んでものごとに取り組む力が現在身についたと思うかでは「そう思う」56%、「どちらともいえない」36%、(5) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」72%、「どちらともいえない」25%。(6) A 目標実現のため周囲の人の協力を得る力が現在身についたと思うかでは「そう思う」58%、「どちらともいえない」33%、(6) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」72%、「どちらともいえない」25%。(7) A 周囲の状況に配慮して行動する力が現在身についたと思うかでは「そう思う」64%、「どちらともいえない」29%、(7) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」75%、「どちらともいえない」22%。(8) A 社会の規範やルールに従って行動する力が現在身についたと思うかでは「そう思う」67%、「どちらともいえない」28%、(8) B 今後身に付けたいと思うかでは「そう思う」74%、「どちらともいえない」23%。(9) A ストレスに対応し自分の感情をコントロールする力が現在身についたと思うかでは「そう思う」58%、「どちらともいえない」30%、(9) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」74%、「どちらともいえない」22%となっている。(10) A 次に、自分の意見を相手にわかりやすく伝える力が身についたと思いかでは「そう思う」52%、「どちらともいえない」36%、(10) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」74%、「どちらともいえない」22%である。(11) A 相手の意見を丁寧に聞き内容を正確に理解する力が身についたと思うかでは「そう思う」60%、「どちらともいえない」32%、(11) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」75%、「どちらともいえない」22%。(12) A 自分と意見の異なる人がなぜそのように考えるかを相手の立場で理解することが身についたと思うかでは「そう思う」63%、「どちらともいえない」31%、(12) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」74%、「どちらともいえない」23%。(13) A 外国語を読み書き聞き話す力が身についたかでは「そう思う」38%、「どちらともいえない」36%、「そう思わない」26%、(13) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」67%、「どちらともいえない」25%。(14) A 社会のために行動する力（ボランティア・NPO 活動など）が身についたと思うかでは「そう思う」58%、「どちらともいえない」が33%、(14) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」69%、「どちらともいえない」25%。(15) A 多様な情報を整理し必要な場面で活用する力が付いたかでは「そう思う」52%、「どちらともいえない」39%、(15) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」71%、「どちらともいえない」25%。(16) A コンピューターを使って文書や表資料などを作成する力が付いたと思うかでは「そう思う」53%、「どちらともいえない」37%、(16) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」71%、「どちらともいえない」25%。(17) A 社会が直面する問題を理解する力が身についたと思うかでは「そう思う」52%、「どちらともいえない」39%、(17) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」71%、「どちらともいえない」26%。(18) A 物事を数式や図表を使って表現・分析する力が付いたと思うかでは「そう思う」45%、「どちらともいえない」36%、「思わない」19%、(18) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」65%、「どちらともいえない」29%。(19) A 次に卒業後も学びつける力が付いたと思うかでは「そう思う」51%、「どちらともいえない」39%、(19) B 今

後身に付けたいかでは「そう思う」68%、「どちらともいえない」28%。(20)A 自国や他国の文化・社会について理解し尊重する態度が身についたと思うかでは「そう思う」50%、「どちらともいえない」39%。(20)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」66%、「どちらともいえない」29%。(21)A 物事を客観的・多面的にとらえる力が身に付いたかでは「そう思う」55%、「どちらともいえない」が38%。(21)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」66%、「どちらともいえない」29%となっている。

C 「本学への総合満足度」

課題 9) 「本学への総合満足度」現在の本学への総合満足度が入学決定時よりも下がっている点と、本学に満足をしている学生の中にも、後輩に入学を勧めたいと回答していない学生がいる点について、原因の究明と対策を早急に図る必要がある。

[問 11]本学へ入学してよかったと思うかについては「よかった」15%、「どちらかといえばよかった」29%、「どちらともいえない」30%、「どちらかといえばよくなかった」14%、「よくなかった」12%となっている。昨年度よりも満足度が低下している傾向にある。

[問 12]次に、所属している学科に満足しているかについては「満足」17%、「どちらかといえば満足」37%、「どちらともいえない」29%、「どちらかといえば不満」10%、「不満」7%である。

[問 13]次に、本学に興味を持っている後輩に本学の入学を勧めたいかについては「勧めたい」10%、「どちらかと言えば勧めたい」24%、「どちらともいえない」34%、「どちらかといえば進めたくない」14%、「勧めたくない」18%となっている。昨年度よりも進めたくないと回答する傾向が少し増えている。

Ⅲ 提 言 伝統ある本学のさらなる発展に向けた展望

全 43 問すべての調査結果は、各グループワーク毎に配布された集計値およびグラフを参照いただきたい。

この結果をもとに、具体的な提言として以下の5つにまとめる。

(1) アンケートの積極的な活用による実態把握

本調査結果から、学生の実態や本学の教育現場での課題について、貴重な示唆が得られた。しかしながら、こうした諸課題に対して、有効な対策を立てて解決していくためには、さらなるアンケート調査を行い、実態把握につとめていくことが重要である。例えば今年度本学では学生の学びの支援と教育改善に関する活動を行う高等教育支援センターが新しく創設され、また地域の様々なフィールドで課題解決のための実践を主体的に行うサービス・ラーニングⅠの授業科目が新設された。こうした新たな本学での教育活動の効果の実態把握のために、新たなアンケート調査を行って学生の意見を収集し、本学での教育活動の質向上に向けて、改善点を検討することが重要である

(2) IT化の推進による教育システムの構築

学生の自主的な学習習慣を身につけさせるため、ITを効果的に活用した教育システムを構築することが必要である。各授業での予習・復習の教材として、パソコンやスマホを使って、問題を解いて解説を読むというスキマ時間を活用した短期反復型の学習システムの構築など、ITを積極的に活用した教育システムを整備することで、教育成果や学生満足度を高めることができないか検討する必要がある。

(3) サービス・ラーニング教育の推進

経済産業省が2006年に提唱した「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」(主体性、働きかけ力、実行力)、「考え抜く力」(課題発見力、計画力、創造力)、「チームで働く力」(発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)の3つの能力(12の能力要素)がある。このうち、「チームで働く力」については自信を持っている学生が多く、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」は苦手意識を持っている学生が多い傾向にある。今年度から創設されたサービス・ラーニングは、

奉仕活動（サービス）と学習活動（ラーニング）の実践を統合させた学習方法であり、教室で学んだことを地域社会で問題解決のために生かすことにより、「社会人基礎力」を鍛える手段として有効であることが知られている。今後本学におけるサービス・ラーニングの教育を最大限に活用していくために、PDCAサイクルを通じた実践を行っていくことが必要である。

（４）アクティブ・ラーニングの積極的な推進

従来の受動的な講義形式の授業から積極的・能動的な授業であるアクティブ・ラーニングを推進していくことが重要である。アクティブ・ラーニングを通じて、学生が能動的に学ぶ環境を整備することで、学習意欲、課題発見力や主体的に考える力などの汎用的能力の向上や育成が期待される。今後、高度で効果的なアクティブ・ラーニングを組織的に導入するために、カリキュラムの検討や、実施体制の整備、授業支援や教員・学生支援、学生スタッフによる協力、ワークショップ形式等によるFD研修などを通じて、総合的な取り組みが必要になってくる。

（５）学習支援のための教職協働の推進

急速な情報化や技術進歩の進展により、社会の変動が激しい現在、大学に求められる役割が高度化・多様化する中で、従来の教員と職員が独立に業務を行っているだけでは、うまく機能しない場面が生じてくることが予想される。これに対処するために学習支援のための教職協働の推進が必要である。教職協働の促進する体制づくり、事務職員の育成、FD・SD研修を通じた人材育成への取組など、具体的に検討していくことが求められる。